

全日本空輸株式会社所属ボーイング式767-300型
JA603Aの航空事故調査について
(経過報告)

令和5年12月21日
運輸安全委員会(航空部会)

運輸安全委員会は、令和5年1月25日、成田国際空港において、全日本空輸株式会社所属ボーイング式767-300型JA603Aがエプロン内で地上走行中、地上作業車両に接触し、機体を損傷した航空事故について、令和5年1月から原因を究明するための調査を進めてきたところであるが、これまでの調査で得られた情報をもとに、更に分析を進めるとともに、原因関係者からの意見聴取及び関係国への意見照会を行う必要がある。このため、本件調査については、本航空事故が発生した日から1年以内に調査を終えることが困難であると見込まれる状況にあることから、運輸安全委員会設置法第25条第4項の規定に基づき、以下のとおり当該調査の経過を報告する。

なお、本経過報告の内容については、今後、新たな情報の入手等により、修正されることがあり得る。

また、本調査は、本航空事故に関し、運輸安全委員会設置法及び国際民間航空条約第13附属書に従い、航空事故及び事故に伴い発生した被害の原因を究明し、事故等の防止及び被害の軽減に寄与することを目的として行うものであり、本航空事故の責任を問うために行うものではない。

1. 航空事故の概要

全日本空輸株式会社所属ボーイング式767-300型JA603Aは、令和5年1月25日(水)、成田国際空港の滑走路34Lに着陸後、エプロン内で地上走行中、スポット上で機体が滑り、周辺に駐車していた地上作業車両に接触し、機体を損傷した。

2. 調査の概要

運輸安全委員会は、令和5年1月25日、本航空事故の調査を担当する主管調査官ほか3名の調査官を指名した。現時点までに関係者からの口述聴取、飛行記録装置等の記録の解析等を実施した。

本調査には、事故機的设计・製造国であるアメリカ合衆国の代表が参加している。

3. 判明している主な事実情報

(1) 飛行の経過

同機は、機長ほか乗務員1名、計2名が搭乗し、同社の定期8512便(貨物便)として香港を出発し、令和5年1月25日07時34分、成田国際空港の滑走路34Lに

着陸後、スポット222に向けて地上走行を行った。

同機は、エプロン内でスポット222に向けて旋回中、スポット上の凍結路面で機体が滑り、周辺に駐車していた地上作業車両に接触し、機体を損傷した。(図1参照)



図1 停止後の同機及び地上作業車両の状況

(2) 死傷者

なし

(3) 航空機等の損壊

① 航空機の損壊の程度 中破

レドーム、前方与圧隔壁、胴体下面外板、前方アクセス扉、前脚格納扉等の破損

② 地上作業車両の損傷

運転席兼操作台の破損及び変形、操作台手すりの変形及び破断

(4) 気象

成田国際空港周辺の天気は、本航空事故前日の19時まで降っていたみぞれが徐々に雪に変わり、20時から23時まで降雪が続き、本航空事故当日の00時以降は晴れとなった。

なお、事故発生時間帯の同空港の航空気象定時観測気象報式(METAR)及び着陸用飛行場予報は、次のとおりであった。

07時30分 風向 280°、風速 15kt、最大瞬間風速 25kt、
風向変動 250°～320°、卓越視程 10km以上、
雲 雲量 1/8、雲形 積雲、雲低の高さ 3,000ft、
気温 -3℃、露点温度 -18℃、
高度計規正值(QNH) 29.91inHg
気象要素に重要な変化が予報されない

4. 今後の調査

本航空事故及び本航空事故に伴い発生した被害の原因の究明並びに事故の再発防止策の検討のため、これまでの調査で得られた情報をもとに、路面の状態、降雪時の運航、除雪体制などの更なる分析のほか、原因関係者からの意見聴取及び関係国への意見照会を行う必要がある。

本委員会は、これまでの調査、分析等によって得られた結果を踏まえて、引き続き本航空事故の原因等の調査を進める。